

2023.7.15 八千代市郷土歴史研究会7月例会 報告

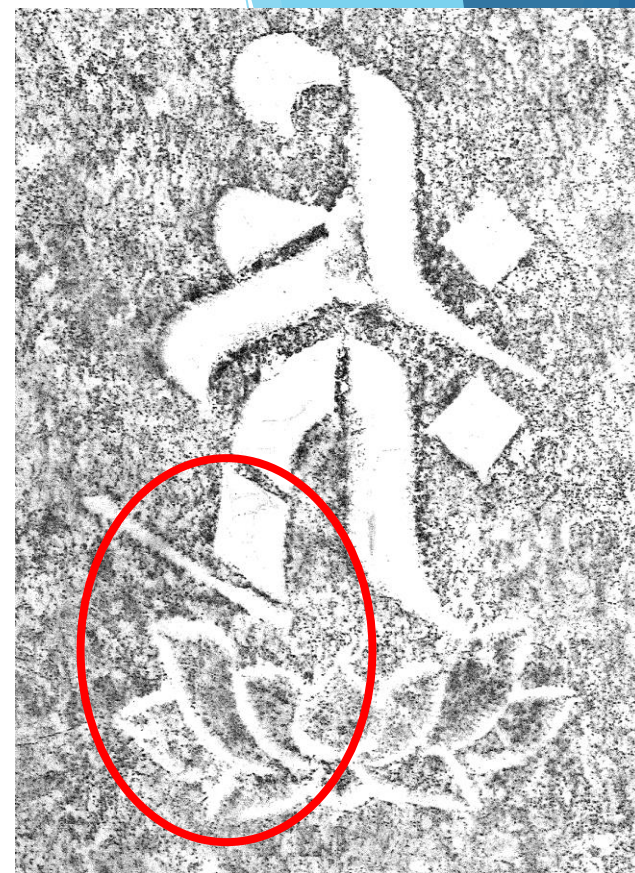
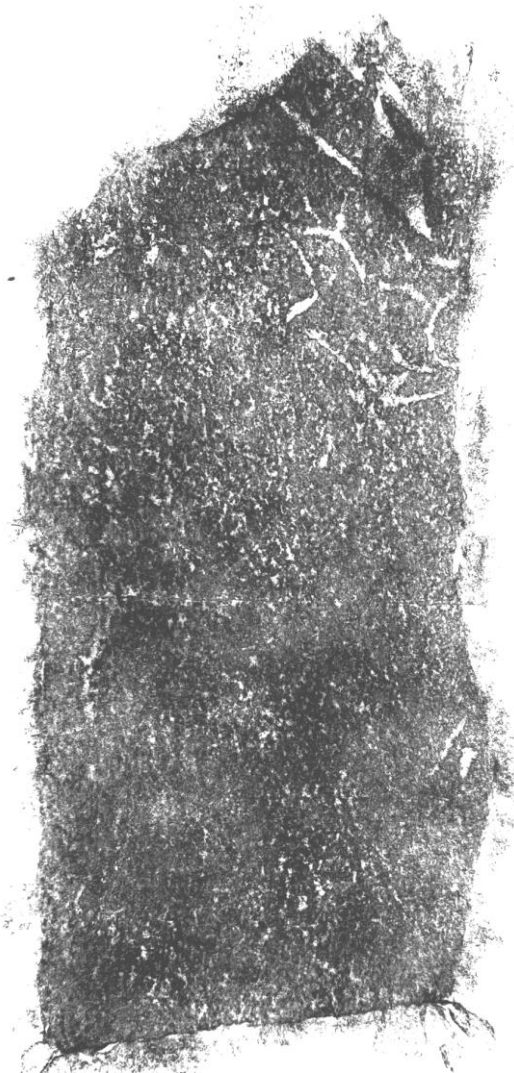
八千代市の板碑集成の新情報

八千代市立郷土博物館蔵の板碑資料の整理に携わって

藤由美



L14神野小名木淳家
阿弥陀一尊断碑



参考：K1萱田梵天塚
阿弥陀一尊板碑（T45）

『市史 資料編』のL14断碑（キリク有・高さ21×幅18.5cm）は拓本が無い。線刻の蓮座の左半分とキリクの下部の一部が確認された高さ29×幅13cmの断碑を（大きさが違うが）「L14」とした。



常設展示の題目板碑（注記「A6」）は採拓の結果、『市史資料編』「小池A8」板碑と判明。銘文は「文明十二年／南無妙法蓮華經法秀／禪尼／六月廿三日」で、『市史資料編』の「法主大□」銘を「法秀」と修正した。

No. 166 武蔵型 完形 題目板碑 一遍首題 永正7年(1510) 61.0×19.0cm

南無妙法蓮華經 □道□□

永正七年□庚



新にA15 (仮) とした板碑

銘「永正七年(1510)庚□ / 南無妙法蓮華經 □道 []」

注記「A1」の板碑は、高さと幅が『市史 資料編』のA1板碑と一致するも、A1の銘文「南無妙法蓮華經 南無大聖人 / 寶如来 / 迦如来 / 応永八年三月十六日」とは全く異なるので別物とし、仮番号A15とした。

『市史 資料編』のA1

A 浅野七男家畑地 小池 (八千代市教育委員会)

A1 武蔵式板碑 高六一 幅一九 (題目板碑)



寶如来

南無妙法蓮華經 南无大聖人

迦如来

応永八年三月十六日

『市史』にない新発見の板碑

A13 銘「〔清□□□居士カ〕／南無妙法蓮華經法／明德二年（1391）□未〔 〕」

A14（断碑）銘「□〔道カ〕／□子母神／〔 〕蓮華經／十羅刹女／〔應永カ〕十年二月〔二日〕」

小池浅野七男家の板碑（『市史』なし 仮A13）

小池浅野七男家の板碑（『市史』なし 仮A14）

No. 164 武蔵型 完形 題目板碑 一遍首題 明德2年（1391） 67.0×23.0 cm

南無妙法蓮華經

一遍首題

明德二年 未□

清□□□居士

No. 165 武蔵型 完形 題目板碑 曼荼羅 応永10年カ（1403?） 56.0×28.0 cm

〔 〕蓮華經


十羅刹女

□子母神

〔應永〕十年二月〔二日〕

館蔵拓本がなく、新たに採拓した板碑


小池浅野七男家の板碑 (『市史』資料編「A10」)

No. 10 武蔵型 断碑	43.5 × 22 cm
<p>年 二 月 日</p>	




「f」は「年」の異体字

小池浅野七男家の板碑 (『市史』資料編「A11」)

No. 11 武蔵型 断碑 題目板碑 曼荼羅	33.0 × 12.0 cm
<p>南无多宝如来 大日天 南无妙法蓮華經 南无</p>	

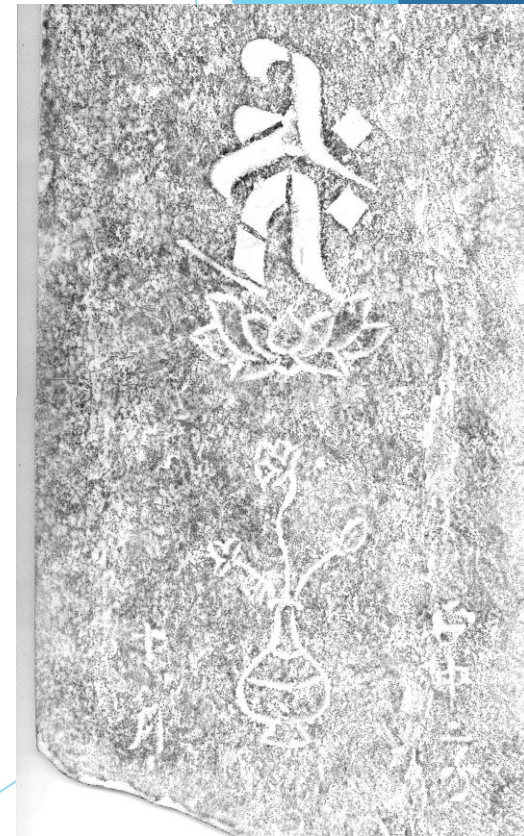
小池浅野七男家の板碑 (『市史』資料編「A12」)

No. 12 武蔵型 断碑 題目板碑	21.5 × 12 cm
<p>〔天戈〕 正月廿 〔〕 〔〕ホ 白 敬 〔〕 無法主大聖人 〔〕</p>	

「村上正覚院」出土とされている断碑
(仮番号W22『市史』に記載なし)の拓本
銘「十二月□日」、花瓶が刻まれている



花瓶 (けびょう)



参考：K1萱田梵天塚
阿弥陀一尊板碑 (T45)

神野の小名木家L6板碑

『市史』S54と『市史 資料編』H3の銘
 「〔応永〕三年月 日」
 『縣史』では「建武三年八月 日」



L6
 武蔵式板碑
 高六四・五
 幅一九
 蓮座
 (蓮座)
 □□(応永)三年月 日

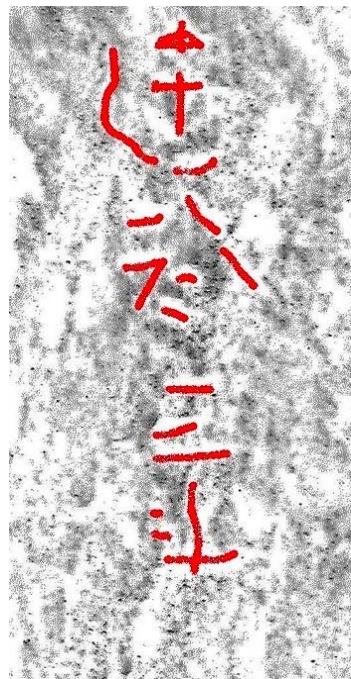
小名木淳
 八千代市神野(阿蘇村)
 三二三
 武蔵板碑
 高六四・五
 幅一九
 蓮座
 (蓮座)
 建武三年八月 日





神野の小名木家L6板碑の実物と館蔵の拓本を観察。
『縣史』のとおり「建武三年」であることが確認
され、『市史』による年銘から正式に修正される
ことになった。

建武3年（1336）は南北朝時代、応永3年（1396）
は室町時代で、時代も一時代遡ることとなった。



↑の図は角田朋彦先生
の作図による

